日本放送協会　理事会議事録

（２０１９年　７月１６日開催分）

２０１９年　８月　２日（金）公表

＜会 議 の 名 称＞

理　事　会

＜会　議　日　時＞

２０１９年　７月１６日（火）　午前９時００分～９時２５分

＜出　　席　　者＞

上田会長、堂元副会長、木田専務理事、板野専務理事、
児野専務理事・技師長、荒木専務理事、松原理事、黄木理事、
中田理事、鈴木理事、松坂理事、正籬理事
今井特別主幹、坂本特別主幹
高橋監査委員

＜場　　所＞

放送センター　役員会議室

＜議　　事＞

上田会長が開会を宣言し、議事に入った。

付議事項

１　審議事項

（１）第１３３４回経営委員会付議事項について

（２）ラジオ予備放送所の用地取得について

２　報告事項

（１）２０１８年度ＮＨＫと関連団体との取引の評価・公表について

（２）２０１９年６月　放送サービスの視聴および接触の現状　全国個人視聴率調査（放送のリアルタイム視聴）

議事経過

１　審議事項

（１）第１３３４回経営委員会付議事項について

（経営企画局）

７月２３日に開催される第１３３４回経営委員会に付議する事項について、審議をお願いします。

付議事項は、議決事項として、「ラジオ予備放送所の用地取得について」、報告事項として、「２０１９年度第１四半期業務報告」、「視聴者対応報告（２０１９年４～６月）について」、「２０１８年度ＮＨＫと関連団体との取引の評価・公表について」、および「契約・収納活動の状況（２０１９年６月末）」です。

（会　長）　　ご意見等がありませんので、原案どおり決定します。

（２）ラジオ予備放送所の用地取得について

（経理局）

中京地区の基幹放送所である鍋田ラジオ放送所については、南海トラフ地震による津波被害に対応するため、放送所被災時でも大規模エリアをカバーできる予備放送所の整備を検討してきました。愛知県刈谷市内に建設候補地を選定し、２０１８年１０月に地権者と用地取得に向けた基本合意書を締結し、これまで協議・検討を重ねてきました。このたび、地権者と条件の合意に達しましたので、当該用地の取得について審議をお願いします。

まず、取得予定地の概要についてです。所在地は愛知県刈谷市小垣江町東高根で、敷地面積２７,６５９㎡、地目は「田」です。次に契約条件についてです。契約先は６名の個人で、契約額は６億６,３８１万６,０００円です。契約日は２０１９年７月２５日、支払・受渡は２０２０年４月の予定です。農用地区からの除外、開発許可、および農地転用許可それぞれの申請許可を受けられることを停止条件としています。

続いて、ラジオ予備放送所の整備概要についてです。敷地面積は約２８,０００㎡で、送信出力はラジオ第１が２０ｋＷ、ラジオ第２が１０ｋ

Ｗです。今後のスケジュールについては、２０２０年度に地代を支払い、所有権の移転を行います。２０２０年度以降に、各種申請、設置設計、および整備工事に着手し、２０２４年度に運用開始を予定しています。

本件が了承されれば、７月２３日開催の第１３３４回経営委員会に諮ります。

（会　長）　　ご意見等がありませんので、原案どおり了承し、７月２３日開催の第１３３４回経営委員会に諮ります。

２　報告事項

（１）２０１８年度ＮＨＫと関連団体との取引の評価・公表について（経理局）

２０１８年度ＮＨＫと関連団体との取引の評価・公表について報告します。これは、ＮＨＫが定める関連団体運営基準第２６条に基づき、ＮＨＫと関連団体との一定規模以上の取引（以下、「取引」）について、毎年度その取引が適正に行われているかどうかの評価を取りまとめ、公表しているものです。

２０１８年度の関連団体との評価・公表の対象となる取引は、件数が２,２１５件、金額は１,９９２億円となり、２０１７年度に比べて１１１億円増加しています。

取引の評価としては、関連団体との取引が随意契約の要件を充足しているかをはじめ、ＮＨＫの経理規程および業務委託基準に基づき、全ての取引が適正に行われているかについて、ＮＨＫが自ら点検し、いずれの取引も適正なものであると判断しています。この判断にあたっては、外部有識者で構成し、関連団体を含めた契約手続き、随意契約の事由について点検・助言する「入札契約委員会」の評価も踏まえています。

２０１８年度の競争による関連団体との契約は、件数が４２３件、金額は１４８億円となりました。競争契約の主なものとしては、ＮＨＫ共同受信施設の大規模改修工事や業務システムの設計開発等業務、ＨＤＣＡＭ　ＶＴＲの定期補修などがあります。

続いて、２０１８年度のＮＨＫと関連団体を含む外部との契約状況について報告します。競争性・透明性の確保を図る観点から、対象となる一定規模以上の取引の実績を公表します。２０１８年度の競争契約は ２,

７４０億円、競争契約率６９.４％となり、このうち、一般競争入札については、実施件数が１,９９７件となりました。放送センター建替工事の契約の影響により２０１７年度と比べ金額、割合ともに大きく増加しています。

本報告の内容は、７月２３日開催の第１３３４回経営委員会に報告したあと、個々の契約情報と合わせて、ＮＨＫのホームページ「ＮＨＫオンライン」で公表します。

（２）２０１９年６月　放送サービスの視聴および接触の現状　全国個人視聴率調査（放送のリアルタイム視聴）

（放送文化研究所）

２０１９年６月に実施した、全国個人視聴率調査の結果について報告します。

全国個人視聴率調査は、全国のリアルタイム視聴を調査し、日常的には地区別に見ている視聴率の全国状況を俯瞰して、テレビ・ラジオ視聴の長期的・構造的変化を確認することを目的としています。

調査は６月３日月曜日から９日日曜日までの１週間、全国の７歳以上の男女３,６００人を対象に、配付回収法による２４時間時刻目盛り日記式（個人単位）で実施しました。有効数は２,２９４人、有効率は６３.７％でした。調査週の状況として、６月３日月曜日と４日火曜日夜間に「全仏オープン」の錦織圭戦、５日水曜日と９日日曜日夜間に「キリンチャレンジカップ２０１９」が民放で放送されましたが、調査結果に大きな影響はありませんでした。

テレビ視聴時間の推移を見ると、ＮＨＫと民放の地上波・衛星波を合わせたテレビ総計は週平均１日あたり３時間３４分で、前年、前々年から横ばいですが、２０１６年と比べるとやや短くなっています。ＮＨＫ総計は５６分で、前年よりやや長くなっています。

テレビの週間接触者率の長期推移を見ると、テレビ総計の週間接触者率は８８.１％で、前々年より減少し、この２０年で最も低い水準です。総合テレビは５５.０％で、ここ５年間は横ばいです。民放地上波計は８１.２％で、テレビ総計と同様の傾向で前々年より減少しています。

テレビ総計の年層別の週間接触者率の１０年ごとの推移を見ると、この１０年で５０代以下が減少しています。特に１３～１９歳と２０代は

７３％で２０年前、１０年前より大幅に減少しています。ＮＨＫテレビ総計は、現在の６０代以上を世代として見ると、２０年前からほぼ横ばいで、年齢を重ねても変化はありません。一方、５０代では５９％で、今の５０代が３０代だった２０年前、４０代だった１０年前と比べて減少しています。

ＮＨＫ４波（総合テレビ、Ｅテレ、ＢＳ１、ＢＳプレミアム）の接触者率を１０年前と比べると、総合テレビは１３～１９歳と３０～６０代で減少し、４０代以下は５０％を下回っています。Ｅテレは２０代以下で減少する一方、ＢＳ１は６０代以上で、ＢＳプレミアムは７０代以上で増加しました。

平日３０分ごとの視聴率を１０年前と比較すると、総合テレビは８時台で増加しましたが、１２時台前半と１９時台前半、２０時台、２２時台で減少しています。テレビ総計は早朝５時台前半と６時台前半で増加する一方、夜間帯では減少し、２１時台以降の視聴のピークが低くなる傾向が見られました。

テレビ総計に占める総合テレビの割合（占拠率）を見ると、土曜日８時台や火曜日１９時３０分～２１時で増加しています。これらの時間帯では５９歳以下でも占拠率が増加しています。

総合テレビでよく見られた番組のうち、前年になく今年新たに上位に入った番組は、年層全体では「チコちゃんに叱られる！」の再放送、「サラメシ」、「ブラタモリ」などに加え、金曜日夜間の地域放送番組でした。５９歳以下では、「ブラタモリ」、「チコちゃんに叱られる！」、「サラメシ」でした。

Ｅテレの週間接触者率は２２.２％で、前年より減少しました。主な時間帯ごとに接触者率を見ると、平日夕方の「幼児・子ども／ティーンゾーン」（１６時～２０時）と、平日夜の趣味・実用番組が多い時間帯（２０時～２４時）で、前年より減少しています。

Ｅテレの時間帯別の接触者率の推移を年層別に見ると、夕方の「幼児・子ども／ティーンゾーン」は、７～１２歳で前年に比べ減少したほか、３０代では１０％を切りました。夕方の視聴率がどの時刻で下がったのか見ると、１８時台後半で前年を下回っています。趣味・実用番組が多い２０時～２４時では、前々年に比べ、２０代と７０歳以上で減少しました。一方で、「朝の幼児・子どもゾーン」は、前年、前々年と同程度

でした。

衛星放送の週間接触者率の推移についてです。自宅で衛星放送を見ることができる人の割合は４８.９％で、前年と同程度です。週間接触者率はＢＳ１が１２.９％で前年、前々年と比べて増加しています。ＢＳプレミアムは横ばいでした。今回からＢＳ４Ｋ・ＢＳ８Ｋの計測が始まり、ＢＳ４Ｋの週間接触者率は０.６％、ＢＳ８Ｋは０.３％でした。

衛星放送の視聴高位番組については、ＢＳ１では「ＭＬＢ」、「日本ゴルフツアー選手権」、「プロ野球」がよく見られました。ＢＳプレミアムでは、「連続テレビ小説『なつぞら』」、「連続テレビ小説『おしん』」、「にっぽん縦断こころ旅・朝版」などがよく見られました。

ラジオの週間接触者率の推移については、ラジオ全局計、ＮＨＫラジオ計、民放ラジオ計ともに長期的に見ると減少傾向が続いています。一方で、ラジオ第１、ラジオ第２、ＮＨＫＦＭは２０１６年以降、横ばいです。

ＮＨＫ９波（総合テレビ、Ｅテレ、ＢＳ１、ＢＳプレミアム、ＢＳ４Ｋ、ＢＳ８Ｋ、ラジオ第１、ラジオ第２、ＦＭ）の接触パタンについて、「総合テレビ＋いずれかの波」で接触する人の割合が全体で最も多く、「総合テレビのみ」を合わせると５０％以上になります。５９歳以下では、「Ｅテレのみ」など総合以外の波でＮＨＫに接触する人が１２％いますが、「ＮＨＫに接触なし」が５０％となっています。

最後に、ＮＨＫ９波計の週間接触者率を地方別に見ると、東北と甲信越が全体より高くなっています。関東は全体より低く、前々年から減少しました。１０年前と比べると、多くの地方で減少しましたが、甲信越と近畿は同水準を維持しています。

以上で付議事項を終了した。

上記のとおり確認した。

２０１９年　7月３０日

会　長　　上　田　良　一